



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。

● 義家弘介文部科学副大臣が本学を視察



意見交換の様子 (写真中央が副大臣)



PEPNet-Japan の取組等の説明の様子



情報システム学科の授業視察



支援機器室での様子

11月28日月曜日、義家文部科学副大臣が、本学(天久保キャンパス・春日キャンパス)を訪問されました。今回の訪問は、特別支援教育や高等教育機関における障害学生支援の検討を行うにあたり、その現状を把握するため本学と筑波大学を視察されたものです。

義家副大臣らは、天久保キャンパスにおいて、大越学長、石原副学長から概要説明を受けた後、聴覚・視覚障害学生に対する教育・研究や就職支援、卒業生の進路、本学の果たすべき役割等について意見交換を行いました。続いてPEPNet-Japan(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク)における取組等の説明を受けた後、遠隔情報保障システムを利用した授業を視察しました。その後、春日キャン

パスに移動し視覚障害学生の現状と情報保障について説明を受け、支援機器室、授業、保健科学部附属東西医学統合医療センターを視察し、本学関係者と意見交換を行いました。

なお、今回の視察には、高見英樹秘書官(副大臣)事務取扱、山之内裕哉文教施設企画部計画課企画官、森下平初中等教育局特別支援教育課企画官、田中聡明スポーツ庁障害者スポーツ振興室長、庄司祐介高等教育局学生・留学生課厚生係長らも随行されました。

(総務課企画・広報係)

● 学生の活躍

大学院技術科学研究科産業技術学専攻の学生が電気加工学会で全国大会賞受賞

12月1日 木曜日、2日 金曜日に名古屋工業大学にて開催された電気加工学会全国大会(2016)の講演発表において、大学院技術科学研究科産業技術学専攻システム工学コース1年の辻田 容希らによる講演発表「単発放電による材料除去過程の観察(連名者:辻田 容希、谷 貴幸、後藤 啓光、毛利 尚武)」が電気加工学会全国大会賞を受賞しました。

この全国大会賞は、全国の大学、企業の研究者による31件の発表の中から、参加者全員の投票によって2件の講演発表が選出されます。辻田氏の講演は、レーザ光源を用いた高速高倍率の撮影によって放電痕形成メカニズムを考察したものであり、従来まで明確では無かったメカニズムの

一部を解明したことが評価の対象となりました。講演後のポスター討論では、今後の研究内容について多くの方々と討論することができました。

本発表における手話通訳等の準備、実施において、情報保障アドバイザー、聴覚障害系支援課の方々から多大なご協力を頂きました。これによって、大学としての研究活動に対する情報保障の取り組みを学会に示すことも出来ました。

(産業技術学部産業情報学科 谷 貴幸)



講演発表



ポスター討論

BiG-i ART FESTIVAL 2016 に学生が出演

11月26日 土曜日、大阪府堺市にある国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)で開催された「BiG-i ART FESTIVAL 2016」に、本学のダンスサークル Soul Impression の学生14名が出演しました。昨年も同じフェスティバルに参加して、その様子はNHKの「ドラマチック関西」で放送されましたが、その際は近畿大学の芸術学科とのコラボでした。今回は単独での出演です。

自分たちと音楽・ダンスとのかかわり方をテーマとした45分間のステージ「BEAT ～みえたよ、きみの「音」～」で、600人ほどの観客を大いに沸かせました。

(産業技術学部産業情報学科 西岡 知之)



ダンスサークルのメンバー

学生が中学生 100 名にロービジョンフットサル特別授業を実施

12月2日 金曜日、保健学科理学療法学専攻4年の岩田朋之さんが、市内の中学3年生100人を対象にロービジョンフットサル体験とTV番組「生きるを伝える」を使った特別授業を行いました。教育実習から交流を続けている中学校の生徒たちが、進路選択の時期を迎え、再び「岩田先生からロービジョンフットサルを教わりたい」という依頼受け、実施したものです。

ロービジョンフットサル体験では、弱視ゴーグルを使用し、尻尾取りゲームや実際にボールを使った弱視体験を行いました。この体験から、ロービジョンフットサル選手が、

どのような環境でプレーしているかについて、生徒たちにイメージをもってもらうことができました。

また、2016年9月岩田さんが出演したTV番組「生きるを伝える」を題材にした授業では、「15歳のみんなにとっての生きるとは」について考えました。岩田さんは、「生徒たちから出る率直な気持ちや考えを共有することができ、このことが、生徒たちの将来の夢や生き方に何か良い影響になれば幸いです。」と話してくれました。

(総務課企画・広報係)



授業をする岩田さん



ロービジョンフットサル体験の様子

ブラインドサッカーサークルが体験会を実施

ブラインドサッカーサークルに所属する保健科学部情報システム学科3年の佐々木ロベルト泉くん、理学療法学専攻2年の森田翼くんが、2月13日月曜日に、銚田市立旭東小学校で、ブラインドサッカー体験会を開催しました。両名ともに2月11日土曜日と12日日曜日にZOZOPARK HONDA FOOTBALL AREA(千葉県千葉市)で開催された、ブラインドサッカー日本代表合宿に参加していましたが、児童たちの歓声にその疲労が癒やされたようです。終了後には、体験会に参加した5年生26名と6年生37名と一緒に給食をごちそうになりました。

また、その模様は茨城新聞クロスアイで、動画つきで紹介されています。茨城県のオリンピック・パラリンピック教育推進事業の一環で依頼されたもので、児童たちにはコミュニケーションの大切さを学んでもらえたようです。

(情報システム学科 福永 克己)



体験会の様子

●「第9回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント」を開催

本学では障がい者のスポーツ活動の振興を目的として、平成19年度に「筑波技術大学 障害者のためのスポーツ体験イベント」を実施しました。平成20年度からは「三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント」として、筑波技術大学、茨城県立医療大学、筑波大学の共催で毎年実施しています。他にも、茨城県障がい者スポーツ指導者協議会、茨城県障がい者スポーツ研究会が共催となり、茨城県、つくば市、つくば市教育委員会、阿見町の後援のもと実施してきました。今年度、本学は11月23日(水・祝)に「第9回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント-障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しよう-」を開催しました。種目は、ボルダリング、ボッチャ、ビームライフル、卓球バレー、自由遊び、スナッグゴルフ、体力測定などで、障がいのある方も障がいのない方も、一緒に楽

しんていただきました。昨年に引き続き、今年もプロゴルファー東尾理子さんにお越しいただき、参加者の皆さんと一緒に楽しんでいただきました。

また、今年度は、本学が聴覚障がい者、視覚障がい者のための大学であるという特色を生かし、日本障がい者サッカー連盟、日本ろう者サッカー協会の後援のもと、「手話 de フットサル」を行いました。日頃から聴覚障がい者がプレー中は手話を中心にコミュニケーション行っていることを健常者の方にも体験してもらうための企画で、小学生を中心に多くの方に楽しんでいただきました。

なお、今年度の参加者数は、昨年の2倍以上の160名となり、とても盛況でした。

(障害者高等教育研究支援センター 中島 幸則)



卓球バレーを楽しむ参加者



ボッチャを楽しむ東尾さん



手話 de フットサルの様子



ボルダリングの様子

● 平成 28 年度障害学生支援大学長連絡会議を開催

12月15日 木曜日、オークラフロンティアホテルつくばにおいて、本学を主幹大学として「平成 28 年度障害学生支援大学長連絡会議」を開催しました。

会議に先立ち、大越学長から、本会議の開催趣旨等を含めて開会あいさつがありました。次いで、文部科学省高等教育局学生・留学生課の井上諭一課長から、「高等教育段階における障害のある学生支援について」と題し、障害のある学生を取り巻く現状と課題、そして今後の対応に関する基調講演が行われました。続いて、静岡県立大学国際関係学部の石川准教授から、「障害学生支援 ―パラダイムシフト」と題し、障害者権利条約や障害者基本法等の障害者支援に係る法令や情報アクセシビリティ政策の課題に関する基調講演が行われました。

引き続き行われた協議「障害学生支援大学長連絡会議の

あり方について」においては、各出席大学から、障害者差別解消法の施行に伴う管理運営体制についての現状報告があり、今後の「障害学生支援大学長連絡会議」のあり方について活発な意見交換が行われました。

会議終了後は、同ホテルにおいて情報交換会が行われ、和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。

同会議に出席された大学は、次のとおりです。

北海道教育大学、札幌学院大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、愛知教育大学、京都教育大学、同志社大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、関西学院大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、筑波技術大学

(総務課総務係)



会議の様子



井上課長による講演

● 鳥取県知事特別講演会を開催

1月11日 水曜日、天久保キャンパス講堂において、学術・社会貢献推進委員会主催の鳥取県知事特別講演会(平成 28 年度地域連携に関する講演会)を開催しました。今回は鳥取県知事の平井伸治氏に「手話言語条例と聴覚障がい者支援について」と題し、鳥取県手話言語条例の制定に至る経緯等について、わかりやすく解説していただきました。

当日は、本学教職員・学生・院生、一般の方々を含む 108 名の参加がありました。

(学術・社会貢献推進委員会 三浦 寿幸)



手話で講演された平井鳥取県知事

● 企業向け大学説明会を開催

10月18日 火曜日に天久保キャンパスにおいて、聴覚障害系就職委員会主催による企業向け大学説明会を開催しました。この説明会は平成10年度から毎年開催されています。今回は69社から、およそ100名の方々にご参加いただきました。

この説明会は、本学から各企業等の人事・労務・社内教育等ご担当の方に本学の教育と学生についてご説明し、聴覚障害学生の雇用ならびに職場適応に関する情報を提供することを目的としています。さらに、人事担当者等から伺った意見・要望等を基に、企業からの求人と学生の求職とのマッチングを図るほか、本学の今後の教育及び就職指導の在り方を検討する際の指針としています。

当日は、全体説明会及び情報交換会を中心として、授業や学内施設の公開も行い、企業の方々からは大変参考になったとの声が聞かれました。

情報交換会では、今年度就職未定者の採用や平成30年3月卒業予定者の就職活動に向けた情報交換が行われました。今後も、企業の方々のご意見を参考に、よりよい企業向け大学説明会を開催していきます。

(聴覚障害系支援課学生係)



情報交換会の様子

● 就活に向けた第1回模擬面接会を開催

1月9日 月曜日、「成人の日」の祝日に、情報システム学科の3年生を対象とした第1回模擬面接会を実施し、7名の学生が参加しました。模擬面接官として、人財・キャリアマネジメント研究所所長 菊地 達昭先生、法政大学大学院政策創造研究科教授 石山 恒貴先生をお招きし、各学生が1人ずつ面接室に入って本番さながらの模擬面接を行いました。学生は、他の学生が受けている面接の様子を同じ面接室で聞き、お互いが勉強できる体制で行ないました。面接直後にフィードバックとして、よい点や改善点についての具体的なアドバイスをいただき、今後の面接試験に向けてとても有意義な模擬面接会となりました。

(保健科学部情報システム学科 堀江 則之)



講演時の様子

● 公開講座「手話スキルアップ講座」を実施

1月29日 日曜日、天久保キャンパスにて公開講座「手話スキルアップ講座」を開催しました。障害者高等教育研究支援センターの大杉豊教授と小林洋子助教が、各地域の手話奉仕員養成事業等で基本的な日常会話を学んだ市民16名を対象に、習得が難しい分野とされる「CL(類別辞)構文」と「説明構文」を中心に実践形式で指導しました。参加された受講者からは、「とても良い講座だったので、年に数回開催してほしい」「詳しい説明で良く理解できた」等のご意見を頂きました。今後も毎年開催の予定ですので、ぜひご参加ください。

(障害者高等教育研究支援センター 大杉豊・小林洋子)



講座の様子

● 東西医学統合医療センターで防災訓練を実施

東西医学統合医療センターでは、2月1日 水曜日の診療後に防災訓練を行いました。今回は地震発生後、出火したことを想定して行いました。参加した30名のスタッフは、出火時の初期対応、避難の方法や経路、消火設備等の再確認など、真剣に取り組んでいました。最近、県内でも大きな地震が発生しています。東日本大震災の経験や教訓を生かして、迅速且つ安全な対応ができるように、対策を進めていきたいと思っています。

(東西医学統合医療センター 櫻庭 陽)



訓練の様子

● 平成28年度研究奨励奨学金の目録授与式を実施

2月14日 火曜日、学長室において、研究奨励奨学金の目録授与式が行われました。筑波技術大学の運用益奨学金として支給されるもので、学術研究及び学業成績が優秀、かつ、今年度、国内外の学会等で発表実績のあった大学院学生3名に対して支給することとなりました。

目録授与式には大学院学生2名が参加し、学長から、今後も研究活動に励んでくださいと激励されました。

(聴覚障害系支援課学生係)



記念写真

● 筑波技術大学基金へのご協力のお願い

筑波技術大学基金は、「本学学生の教育・研究・社会貢献に関する活動を支援し、聴覚・視覚障害者として社会で活躍できる人材の育成に資すること」を目的として、平成24年4月に設立されました。皆様からの貴重な寄附金を基に、学生表彰、海外留学・国際交流、国際的スポーツ大会参加、ボランティア活動、就職のための資格試験、課外活動・学園祭など、国内外で活躍する本学学生に対して支援しています。また、平成28年9月から支援対象を拡げ、新たに経済的な理由により修学困難な学生に対して支援を行うこととしました。

今後も、皆様のご期待に添えますよう、本学の特色を活かしたさらなる学生支援を展開していきますので、本基金の趣旨をご理解いただき、格段のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基金による学生支援

筑波技術大学基金

教育研究活動支援基金

学生の教育・研究・社会貢献活動、外国の大学等との教育交流及び本学受入留学生に対する支援など

修学支援基金

経済的な理由により修学困難な学生に対する支援

※平成28年9月より開始

教育研究活動支援基金

- 1 学生の教育・研究活動等への支援
 - (1) 教育・研究活動支援
臨床実習補助金の支給
教育実習補助金の支給など
 - (2) 課外教育活動支援
国際大会出場費用の支給
学園祭助成など
 - (3) 社会貢献活動支援
ボランティア活動助成など
 - (4) 就職活動支援
模擬試験等の実施など
 - (5) 学生表彰
双峰賞、学長賞の授与
- 2 外国の大学等との教育交流及び
本学受入留学生への支援
- 3 その他基金の目的達成に必要な事業

修学支援基金

- 1 授業料相当額の支給
- 2 奨学金の支給
- 3 海外への留学費用の支給
- 4 ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント等としての学生の雇用

税法上の優遇措置

1 個人からのご寄附

(1) 所得税の優遇措置

寄附金額が2,000円を超えた場合は、確定申告をすることにより所得税の控除が受けられます。

① 所得控除の場合

(寄附金額－2,000円)を所得から控除

② 税額控除の場合

(寄附金額－2,000円)×40%を所得税額から控除

教育研究活動支援基金

にご寄附いただいた場合

➡ ① 所得控除が適用されます

修学支援基金

にご寄附いただいた場合

➡ ① 所得控除又は② 税額控除のいずれかを選択することができます

(2) 個人住民税の優遇措置

お住まいの自治体で、本学への寄附金が控除対象として指定されている場合、総所得額の30%を上限とする寄附金額について、下記のとおり翌年の個人住民税額から控除されます。

県民税 (寄附金額－2,000円) × 4 %
市民税 (寄附金額－2,000円) × 6 %

2 法人からのご寄附

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額が損金算入できます。

資料請求・お問合せ先

総務課総務係

TEL : 029-858-9416 FAX : 029-858-9312

E-mail: kikin@ad.tsukuba-tech.ac.jp